

2026年4月、「国際共創学部（仮称）」新設。

2026年4月に開設予定の「国際共創学部（仮称）」は、1学科「国際共創学科（仮称）」から構成され、その下に「国際日本学専攻（仮称）」および「環境サステナビリティ学専攻（仮称）」の2つの専攻を設定。2つの専攻による専門教育と、「文理複眼」の思考を養う専攻を横断した多彩な学びが特徴。
※2026年4月開設予定

伝統の少人数教育で、「教養ある豊かな人間性」を育む

成蹊大学は教育者・中村春二が1912年に創立した「成蹊実務学校」を源流としています。「少人数による個性尊重の人格教育」の伝統は、大学の前身となる旧制高等学校のリベラルな学風とともに現在も受け継がれています。教職員と学生が至近距離で接することで、ゼミや研究室、キャリアサポートに至るまで質の高い教育と支援を実現してきました。また、文系・理系すべての学生が、東京・吉祥寺の風格ある建築物と緑に囲まれた「ワンキャンパス」で4年間を共に過ごすことから、さまざまな学問や仲間との出会いが学生の成長を支えています。双方向対話型のゼミで学ぶ高度な専門知識、学部を越えて身につける幅広い教養。成蹊大学では、学生一人ひとりが学問の本質を探究できる豊かな環境を整えています。

学部・学科GUIDE

経済学部 論理的な思考力と分析力を磨く

経済数理学科と現代経済学科の2学科体制で、専門分野を深く学びながら、幅広い教養と視野を身につけます。経済数理学科では、専門的な経済分析や未来のICT社会を支えるデータ分析など、理系・文系の枠組みを越えた専門的な教育を実践し、立ちちはだかる社会課題を解決に導く、数理的思考ができる次世代のリーダーを育成します。現代経済学科では経済学の知識をフィールドワークなどの実践型研究で掘り下げ、検証していくことで、社会や企業の課題を客観的かつ批判的に捉えられる目を養います。また、グローバルと地域コミュニティの2つの視点を生かしながら、現代社会の問題発見につなげていく実践力・応用力を身につけます。

経営学部 次世代型マネジメント教育

経営学部では、総合経営学科の1学科体制で、企業経営とこれからの情報社会に貢献する人材を育成します。経営学を主軸に学びつつ、国際文化や情報分析についての知識・スキルを習得。ビジネスの現場を体感しながら、企業が直面する複雑な課題に対応できる「次世代型マネジメント能力」を養います。また、ビジネス英語の基礎から英語でのプレゼンテーションスキルを身につける授業や、国際展開する企業を想定した、経営学の専門分野を英語で学ぶ授業なども豊富に用意。さまざまな国や地域への理解を深め、グローバル社会への対応力を養います。

■学部・学科（募集人員は2026年度予定）

- 経済学部**
経済数理学科80 / 現代経済学科170*
- 経営学部**
総合経営学科320*
- 法学部**
法律学科274* / 政治学科156*
- 文学部**
英語英米文学科106* / 日本文学科84 / 国際文化学科105* / 現代社会学科105
- 国際共創学部**
国際共創学科150*（国際日本学専攻 / 環境サステナビリティ学専攻）
- 理工学部**
理工学科420（データ数理専攻 / コンピュータ科学専攻 / 機械システム専攻 / 電気電子専攻 / 応用化学専攻）

※2026年4月開設予定。学部・学科・専攻名はいずれも仮称。

*募集人員は変更になる可能性があります。

法学部 深い見識のある人間の育成

近代社会において、法律と政治は共に不可欠であり、相互に結びつきの強い関係にあります。そのことから、共通科目を充実させ、**法律学科**と**政治学科**の学科の枠を越えて横断的な科目履修ができることが特徴です。1年次から少人数制のゼミで議論する能力を育てるとともに、卒業論文・ゼミ論文を必修化し論理的思考力、文章力、論述力を養います。また、自発的な学習意欲の高い学生を対象としたエキスパート・コースの設定、キャリアパスを意識して履修ができる重点学修認定制度からなる「高度職業人養成システム」をカリキュラムに導入し、

資料請求



請求ハガキ	巻末ハガキ
料 金	送料300円 (後納)
完成時期	5月下旬



より高度な専門性を身につけます。

文学部 さまざまな角度から「人間」を探究

文学や文化、言語を手がかりに、「人間とは何か」を探究します。他学科の専門科目も履修でき、学科を越えた多様なアプローチが可能です。英語英米文学科では、英語の運用力を強化し、英語圏の文学と文化の深い理解をめざします。日本文学科では、日本文学や日本語を深く考察し、日本文化の本質を知ることで、海外に向けて正しく日本の姿を伝えることを重視しています。国際文化学科では、ひとつの地域や民族について、過去の文化との比較、ほかの文化との比較、世界の中での位置づけという3つの視点から学びます。現代社会学科では、メディア、家族や都市、地域社会、環境、福祉など、現代社会に存在するさまざまな問題について分析・研究します。

国際共創学部（仮称） 「共創人材」を養成する多彩な学び

国際共創学部（仮称）は、持続可能な社会の実現のために、「文系」「理系」の枠組みを越えた複眼的思考、そして他者との「共創」によって、あらゆる現代の社会課題を解決できる人材を養成します。国際日本学専攻（仮称）では、「文化」や「地域」の問題や課題に目を向け、人々がどのように社会を形成、発展させてきたかを探究し、日本文化と世界各国の文化との比較を通して人の営みそのものへの理解を深めます。環境サステナビリティ学専攻（仮称）では、「環境」や「地理」をキーワードにさまざまな要因が絡む社会問題の本質を理解し、未来社会に必要な課題探究力を身につけます。

※2026年4月開設予定。

理工学部 社会課題に取り組む「新しい理系」を育成

学問分野を明確にした5つの専攻を設置。自分に合った専攻分野で深い専門知識を身につけます。さらに専攻の垣根を越えて融合分野の科目を履修し、学びの幅を広げます。データ数理専攻では、現実問題のより良い数理

モデル化を考えるモデリング手法、数理モデル化した問題を解くアルゴリズムや最適化手法、さまざまなデータを分析して利用する手法を基礎から応用まで学びます。コンピュータ科学専攻では、PC・サーバ・IoT・スマホなどのコンピュータを扱うためのソフトウェア技術を身につけるとともに、画像・映像・音声・テキスト・対話を処理するためのAIを駆使したメディア技術を学びます。機械システム専攻では、強度と耐久性、環境や快適さなどを考慮した機械システムの技術と、人・モノ・お金・情報などが関わるシステムをより良く機能させる方法について学びます。電気電子専攻では、電気電子・機械制御・情報処理を有機的に網羅した充実のカリキュラムにより、社会・産業・情報基盤を支える理論と実践を学びます。応用化学専攻では、健康・医療をひらくライフイノベーションと、持続可能な社会をひらくグリーンイノベーションに貢献する人材育成を見据え、ITを活用した化学の学問探究と社会への応用を学びます。

副専攻制度

所属学部学科の専門教育に加え、関心や目的に応じて一定系統的なまとまりを持ってさまざまな知識を体系的に学修できる制度です。学生の興味関心やニーズに応える数多くの副専攻を用意しています。

将来を見据えた教育と卒業生の活躍

就職支援 全学生を対象に、1年次からキャリア教育科目を開講。また、キャリア支援センターでは「すべての学生が自身の適性を生かし、なおかつ成長できる企業へ就職すること」を目標に、学生一人ひとりに個別相談を中心としたサポートが行われています。

資料請求方法：巻末ページの「パンフレット一括請求」をご覧ください。